

Hyper Ing 2011

(“Hyper Ing”は上高生を応援する先輩メッセージ“Ing”のパワーアップ号です)

上野高等学校進路指導部 vol.2 2011/7/7

上高の「花道の先輩」ドキュメント その2

上野高校を巣立った先輩たちがどのように学生生活を送っているのか、大学を直接訪問してお話を伺いました。第2回は2011年5月20日、神戸市にある神戸大学を訪れました。

第2回：積み重ねがプライドを育む

神戸大学 国際文化学部 1年 村岡沙織さん



国際文化学部棟前で 向かって右が村岡さん

◇神戸を見下ろす高台の総合大学

——JR 六甲道からバスの道中はひたすら坂（写真）、大学構内も坂と階段の連続ですね。

村岡 この奥に発達科学部がありますが、たぶんその1階はここ総合文化学部の3階ぐらいの高さです。

——道路をまたぐ橋の向こうにもたくさん学部がありますが、授業の移動は大変じゃないですか？

村岡 私たちの授業はこのキャンパスだけです。他学部の1年生はここで授業があるので（注 国際文化学部は旧教養部、一般教養を担当）、20分間の休み時間に移動しなければならないから大変です。金曜日はどこも各学部の授業だけなのでこの辺は閑散としますが、それ以外の曜日は食堂はひどく混雑します。

——学生はどんな感じの人が多いですか？

村岡 国際文化学部の生徒は皆真面目ですね。女子が7で男子が3の割合です。授業もきつきつじゃないしのんびりした印象です。他学部はどの曜日も5限目までびっしりあるそうです。

——時間割を見せてもらおうと、概論が多いですね。

村岡 国際文化学部は2年次から4コースに分かれるので、それぞれの概論があります。学部生は1学年140人、二つ以上の概論が必須なので各講義に100人前後が集まります。私は言葉に興味があるので情報コミュニケーションに進みたいと考えています。ここはどちらかというと不人気で、異文化コミュニケーションに人気が集まるようです。

——情報コミュニケーションってどんなことをするのですか？

村岡 言葉を使ってどうコミュニケーションするかが主なテーマで、IT 関係の研究もあります。今は概論で言語と非言語の伝達手段について学んでいます。パワーポイントでの説明を聞くだけの講義でしんどいです(笑)。国際協力講座は国際文化学部の生徒しか選択できない講義で、JICA の職員が毎週派遣されてきて、毎回違う話をします。この間はウガンダとルワンダに派遣されていた方の現地の報告でした(写真)。

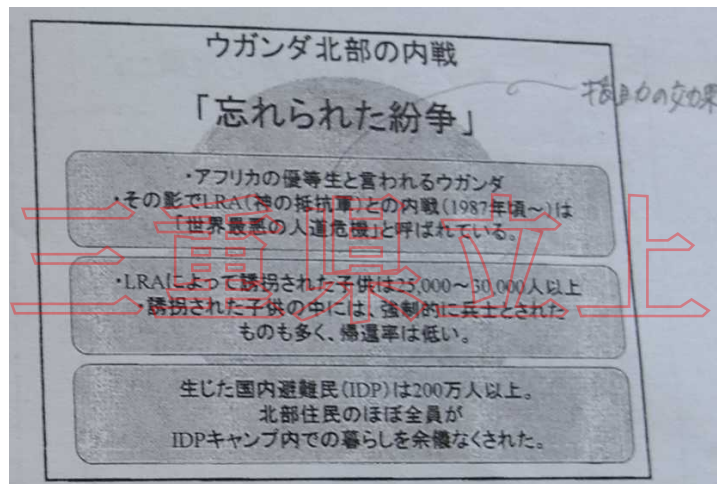


——そこはアフリカでも特に激しい内戦があったところですね。宿題とかはありますか？

村岡 授業の最初に授業内容と小レポートの予告があって、それを踏まえて講義を聴くことになります。宿題のある講義はここぐらいです。後は基本的に講義を聴いて知識を身につけるという感じです。

——基礎ゼミではどういう勉強をするのですか？

村岡 文章が渡されて、それに関するレジュメを作って皆の前で発表します。私もそろそろ当番が来ます。卒論の準備の授業ですね。



——基本中の基本ですね。渡された文章に関連する文献に当たる必要があるし、ちゃんと自分の意見も交えないと発表になりませんからね。でも時間割(写真)を見せてもらうと1回生のうちはそういう授業は少ないですね。外国語も第2言語をあわせて4コマですか？

村岡 英語購読はアメリカのアニメを見てディクテーションをし、その後関連するアメリカのライフスタイルに関する文章を読みます。オーラルはパソコンの教材を使ってリスニングをします。

——それだと村岡さんの得意な語学力が鈍りますよね。文系は語学力がないと卒論で困ります。

村岡 そうなんです。2回生では別のプログラムを利用して語学力をつけようと考えています。

◇現役時代の失敗

——さてそろそろ本題なのですが、まずは現役時代の話から。

村岡 やはりその話からですね。現役時代は大阪市立大学が第一志望でした。文学部の中に言語文化学科があって、前から言葉そのものに関心があったからここにしよう。でもセンター試験で思ったほど得点できず、二次試験は英語と国語なのですが、国語が苦手で、結果届きませんでした。

——いつぐらいから本格的に受験勉強を始めましたか？

村岡 3年の夏ぐらいからやる気が出てきました。部活(バスケットボール)は4月に引退したのですがその後なかなかエンジンがかかりませんでした。できる教科をすることが楽しくて、夏休みは英語、生物、数学をかなりやりました。一方国語が苦手で、これを最後まで引きずりました。

——今考えると、どの辺に問題があったのでしょうか？

村岡 国語はたいい評論、小説、古文、漢文ですよ。私は「自分は評論が苦手だ」とずっと思い込んでいて、ひたすら評論のトレーニングをしていたのですが、実は苦手は小説と古文だということがわかった時にはもう遅かった。センター試験の国語がひどくて、評論と小説で93点とったのに、古文は24点、前半に時間を使いすぎたため漢文に手が回らず8点。その分を英語で挽回しようとしたのですが、模擬試験では常に90%はとれていたのに本番では80%しかとれませんでした。

——センターリサーチの結果は厳しかったとはいえ逆転可能な数字でしたよね？

村岡 担任の先生には三重大を前期後期で受けるように勧められたのですが、やっぱり嫌で、前期落ちたら三重大に行くつもりで前期は大阪市立大学、後期に三重大へ出願しました。中期は担任の先生の勧めで都留文科大学を受験しました。でも二教科では逆転は難しかったです。

——それで、前期が不合格で、中期と後期は合格しましたよね。先生の中には「村岡さんは三重大に進学したんじゃないの」と言っていた人もいたぐらいだから、かなり揺れたんですよ。

村岡 そうです。すごく悩んで、最後に大道先生に相談に行ったんです。そしたら先生に「三重大じゃあ村岡さんにはもったいないよね」と言われて、そこで私のプライドに火がつかしました。

——たぶんその次に私のところに来て、「先生、私浪人します。つい5分前に決めました」って言ったのを覚えています。

村岡 たしかそうでした(笑)。

◇浪人時代、学習方法の発想を転換

——それで予備校は河合塾に入校したんですよ。

村岡 天王寺校には市大、府大コースがあったのですが、どうせならひとつ上を目指して、だめでも市大ということで神大コースにしました。

——私の大学時代の友達で浪人組もそんな感じでした。名大志望だけどKB(京大文系)クラスとか。

村岡 でも、授業で講師が「神大ではこうだ！」というのを聞いているうちに、神戸大学はいいなあと思いました。言語と国際の両方が学べるのも魅力でした。

——浪人をしてよかったと思えるところはどんなところですか？

村岡 まずテキストの質がすごいです。全統模試の出題者の人たちが講師で、「こういう書き方をすれば模擬試験で点が取れる」ということを教えていただきました。

——テストには必ず出題者の意図があって、それにちゃんと答えているかが相手にわかるように答案を作成する必要がありますよね。

村岡 まさにそれです。現役時代になかなかそういうことを教えてもらう機会がありませんでした。苦手な国語だけでなく、英語や数学も見てもらう人にわかりやすい解答の書き方を学びました。おかげでマーク模試は常にA判定、記述もBより下がることはなく、ドッキング判定も常にAをキープできました。あと、自習室が充実していて、みんなが頑張っている姿を見ると自分もやらなければと思いました。

——自分で実力がついたと実感できたのはいつ頃ですか？

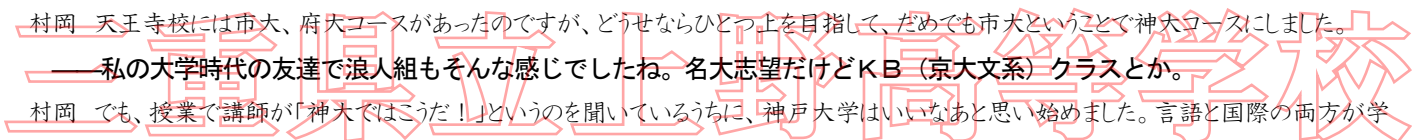
村岡 夏休みの夏期講習の頃ですかね。

——でも浪人生にとってそこから入試までが長い。

村岡 本当にそうです。今入試をしてくれないかなど(笑)。夏までにほとんどやりきってしまって、秋ぐらいいはしんどくなりました。「まだ続くのか…」って感じで。12月くらいまでしんどかったです。結局それを乗り越えられずにセンター試験を迎えた感じです。

——それでもセンター試験は軽く8割越えですよ。現役の時もスランプはありましたか？

	月	火	水	木	金
英語 リーディング				教養原論 ^(中)	情報科学概論 ^(中)
	教養原論	英語 オーラル	異文化 コミュニケーション 概論		基礎ゼミ
	第2外国語 (フランス語)	健康 スポーツ	第2外国語 (フランス語)		現代文化概論
	情報基礎	国際協力 講座 ^(中)	情報ミ ニケーション概論		
	地域文化 概論				



村岡 数学は得意なのに試験で結果が出ない、というスランプに陥りました。たぶんセンター試験の時期です。頭の中でわかっているけど点数がとれない。解説を聞くと「なるほど」と思うのですが、自分の力でゼロから解答にたどり着けないのです。だから予備校時代は「こうしたらこうする」という演習を反復しました。予備校の先生は「数学は運動神経だ」と言っていました。それぞれの出題について、キーワードを見つけて、どのパターンで解答するかを瞬時に選ぶ。そのパターンを夏休みに同じテキストを4周することで徹底的に覚えました。浪人生って勉強しかすることないんですよ。ご飯と寝る時間以外はひたすら勉強です。現役時代はどうしても時間が制限されます。学校から帰ってきたら疲れるし、そうなるとうい好きな勉強ばかりをしてしまいます。

——神戸大学の二次試験とえば、現代文の読解と要約が有名ですが、それ以外の部分や英語や数学は単語、構文、公式活用など受験生の基礎的な学力を試す良問が多いですよ。

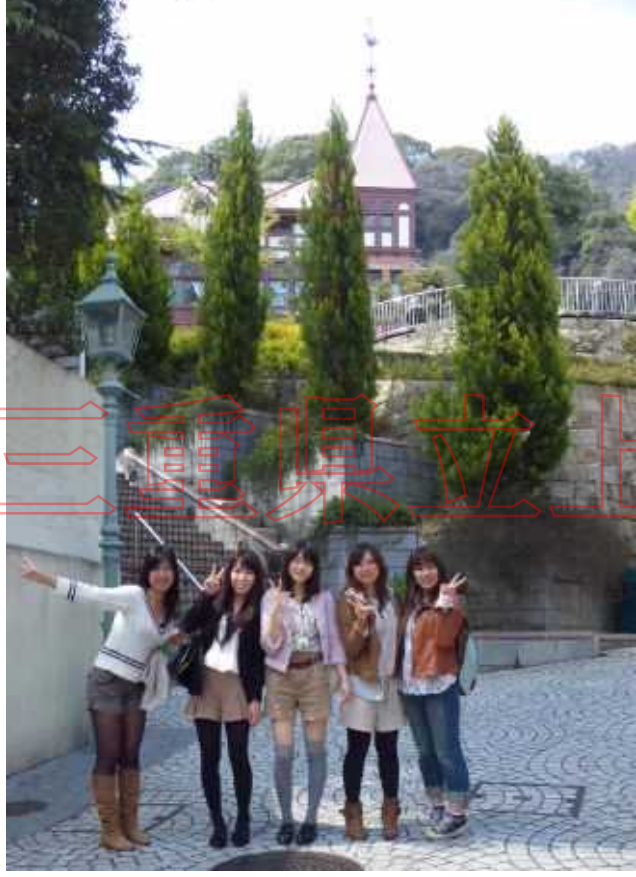
村岡 そう思います。古文と漢文はちゃんと読めるし平易です。現役の時の反省をいかして、センター試験も二次試験も古典と漢文から解きました。英語は見た目平易なのですが、答案を作成するのは容易ではありません。大阪大学の問題は見た目も設問も難しすぎです(笑)。

——確かに去年の阪大の数学は難しすぎでした。その分大当たりすると逆転できますが。神大に合格するためにはどの辺がポイントでしょうか？

村岡 国際文化学部だと英語ができて当たり前、国語は難しい、だからこの二つでは差がつきません。差がつくのは数学ですね。神大を目指す文系の生徒さんは数学をしっかり勉強しましょう。

——英語が得意な村岡さんのおすすめの学習法は？

村岡 映画を英語字幕で鑑賞しました。最初は日本語音声と字幕で英作文のトレーニング。英語音声でリスニング強化ですかね。あとリスニングのCDは1.5倍速で聞きました。



——世界史、最初の方はひどかったけど現役時代には最後センターで8割まであげましたよね？

村岡 世界史は過去にやったことをどんどん忘れてしまいます。3年生になってテストで1年や2年の範囲がでたら解けないことが普通に起こります。だから1年のことからしっかり思い出す勉強をしました。1、2年生の頃から常に毎日のテストや定期テストを一生懸命やっておくことです。一生懸命やったことは忘れてはいるのではなく、実は覚えているのに思い出せないだけなのです。

——今のは非常に大切な上高生に対するメッセージですね。最後に後輩に何かありますか？

村岡 頑張った分だけどこかで力が発揮できます。隔週テストとか、小さなことを一生懸命積み重ねることが本番で一步リードするための秘訣だと思います。普段から少しずつ頑張ってください。

——ありがとうございました。

異人館で 右から2番目が村岡さん